

## 医学部生に対する実践知習得支援が、将来の不適切なアウトカム出現の減少に寄与するかについての研究

### 1. 研究の対象

2023, 2024 年に本学に入学予定の医学部医学科生を対象とします。  
また対照群として 2014-2016 年に本学に入学した者を設定しています。

### 2. 研究目的・方法

医師は、医療を取り巻く多くの課題に対し、主体的に関わり問題解決への糸口を見出すため、医学的スキルに加えて、質の高い『実践知』が求められます。しかし、現在の卒前教育では『実践知』を訓練する機会は極めて限られており、学生個人の活動や課外活動に依存しています。本研究は、入学直後の医学部生の中で『実践知』習得が特に必要な群の特徴を同定します。さらに、それらの群に対する実践知習得支援を通じてどの程度の実践知向上が認められ、さらに長期的な不適切なアウトカムが減少するかの検討を目的とします。これは、医学部生が将来医師となった際に、どんな分野に進んだとしても応用可能な『実践知』が習得できるような教育手法を開発することとともに、限られた人材を有効に活用するという少子高齢化・人口減少時代に最適な教育手法の開発に繋がります。なお本研究は、（倫理委員会承認日）～2028 年 3 月 31 日までを研究期間として設定しています。

本研究は、『実践知』を習得させる医学部卒前教育に関し、特に『実践知』の習得が求められる学生群を態度評価から特定することを通じ、その群の特性を明らかにして、強化支援した場合に不適切なアウトカムが減少して、どの程度の実践知の向上が認められるかを解明することを目的とします。

本学医学部医学科 2014-16 年度入学生が 1 年生時に受講した早期医療体験実習（EME 初期臨床医学体験）における態度評価と、『実践知』を欠いたためと思われる不適切なアウトカム（留年・再試験の数等）との関連を評価・検討します。態度評価の定量化には、M. Kelly らが開発した誠実性指数（Consciousness Index: CI）を改変して用いる予定です（AcadMed, 2012）。CI は、我々の収集する態度評価に類似しており、客観的な評価指標であることから、『実践知』の評価として有用であると考えました。この結果をもとに、2023, 2024 年度入学生で早期医療体験実習受講者に対して施行予定の「態度評価」から CI を算出し、『実践知』の習得強化が必要と予想される学生群を同定し、『実践知』習得支

援を行います。具体的には、実生活に『実践知』を習得して実生活に応用出来るよう、少なくとも年に1回以上、研究者とともに面接やグループ学修を行い、継続的に支援を行います。さらに前述の2014-2016年度入学生を対照群として、不適切なアウトカムの出現などについて比較・検討を行います。

### **3. 研究に用いる試料・情報の種類**

対象者の留年の有無、再試験の数等、本学における教育過程で得られた測定データ(診療情報以外)

アンケート、自己評価表やインタビュー等による情報収集

### **4. お問い合わせ先**

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて学生もしくは学生の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも学生に不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先(研究責任者)：

国立高知大学医学部附属 医学教育創造センター 黒江 崇史

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

TEL 088-880-2291

FAX 088-880-2276